

令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：株式会社YMFGZONEプランニング

活動地域：山口県 周防大島町

活動におけるテーマ

『地元高校と連携したESDモデルの構築及び

地域課題解決と連動したエコツアーリズムの推進』

本事業への関わり：2年目

活動団体と地域の紹介

活動団体 株式会社YMFG ZONEプランニング

- 地域金融機関の山口フィナンシャルグループのグループ会社
- 地方創生・地域活性化コンサルティングを行っている

活動地域

【周防大島町】

- 山口県南東部の瀬戸内海に位置し、全域が瀬戸内海国立公園指定される等、美しい景色や自然に恵まれている
- 人口は14,798人、高齢化率は54.6%（令和2年国勢調査）となり、人口減少・高齢化が顕著に進む地域で、地域の主要な産業は農業、水産業及び観光・飲食サービス業である

【地域資源】

- 国内最大規模のニホンアワサンゴ群生地（約3000㎡。近年は、一部死滅も確認されている）
- 瀬戸内海国立公園で初の「海域公園地区」（町南東沖の海域）及び周辺の「陸域公園地区」
- 山口県立周防大島高等学校（以下、周防大島高校という。）
- 多様な歴史を有する豊かな自然環境、地域の自然資源などの活用・保全に取り組む多様な団体
- 令和5年度に供用開始予定のエコツーリズム拠点施設（様々なエコツーリズム活動の拠点として活用予定）

位置図



地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

周防大島高校の「島じゅうキャンパス」の取組から環境・経済・社会の課題解決を目指すプロジェクトが創出され、ステークホルダーが応援、事業化することで環境保全と地域経済活性化を実現した持続可能な地域となる。

地域のありたい未来を実現するために、中長期的に見て必要な取組や仕組みは何か

①持続的に事業のタネが創出される仕組みづくり

- 環境・経済・社会の統合的な課題解決を目指す事業のタネを高校生が生み出すには、地域循環共生圏を理解することが必要だが、教員の異動や生徒の卒業によりノウハウが教育現場に残りづらい点が課題。
- 地域循環共生圏を学ぶオンラインコンテンツの活用や年間カリキュラムの見直し等により、**人の入れ替わりが発生しても持続的に事業のタネを創出できる仕組み作りが必要。**

②創出した事業のタネをプラットフォームで磨き上げる体制づくり

- 令和4年度は生徒の発表会にステークホルダーが参加し意見交換を行うことで、事業のタネの磨き上げを実施したが、島外も含めたステークホルダーが参画しており、移動に要する時間や負担が大きい点が課題。
- 加えて発表会のタイミングだけでは回数も限られ、十分な磨き上げを実施できないということから、**ステークホルダーの負担を低減するとともに、即時性がある磨き上げの仕組みづくりを行うことが必要。**

③事業のタネに関する事業化する仕組みづくり

- 事業のタネを事業化していく上では、事業主体となる民間企業の検討を行うとともに、資金調達の手法の検討やマネタイズに向けた実証等を行うことなどが必要。
- 金融機関等と連携して資金調達について考える場の設定や、実証に向けて中央省庁、外郭団体の活用できる制度の共有など事業化に向けた支援が必要。

今年度取り組みたい事（本事業でチャレンジしたい事）

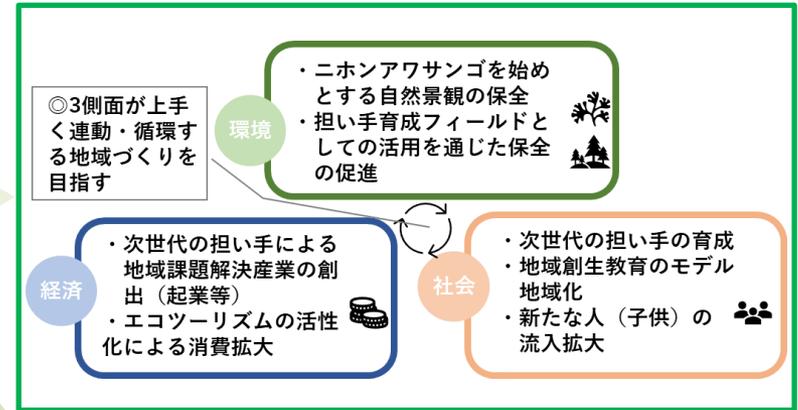
- ステークホルダーと周防大島高校が連携促進において、デジタルツールを活用する新たなESDモデルの構築
- 令和4年度「事業のタネ」に関する事業化支援（エコツアー、クラウドファンディング実施支援）

活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して 解決したい地域の課題

(社会) 全国に先駆けて高齢化が進行している地域であり、地域づくり、歴史・文化の伝承などの次世代の担い手育成が課題。
(環境) 持続可能な循環型社会づくりを進める必要があるが、環境保全等に関わる担い手も高齢化しており、担い手育成が急務。
(経済) 農業、水産業、宿泊・飲食サービス等が町外からの所得を稼ぐ上で重要な産業だが、農用地などの自然的土地利用が減少、未利用地が増加しており農業における担い手も不足。

地域のありたい未来



環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

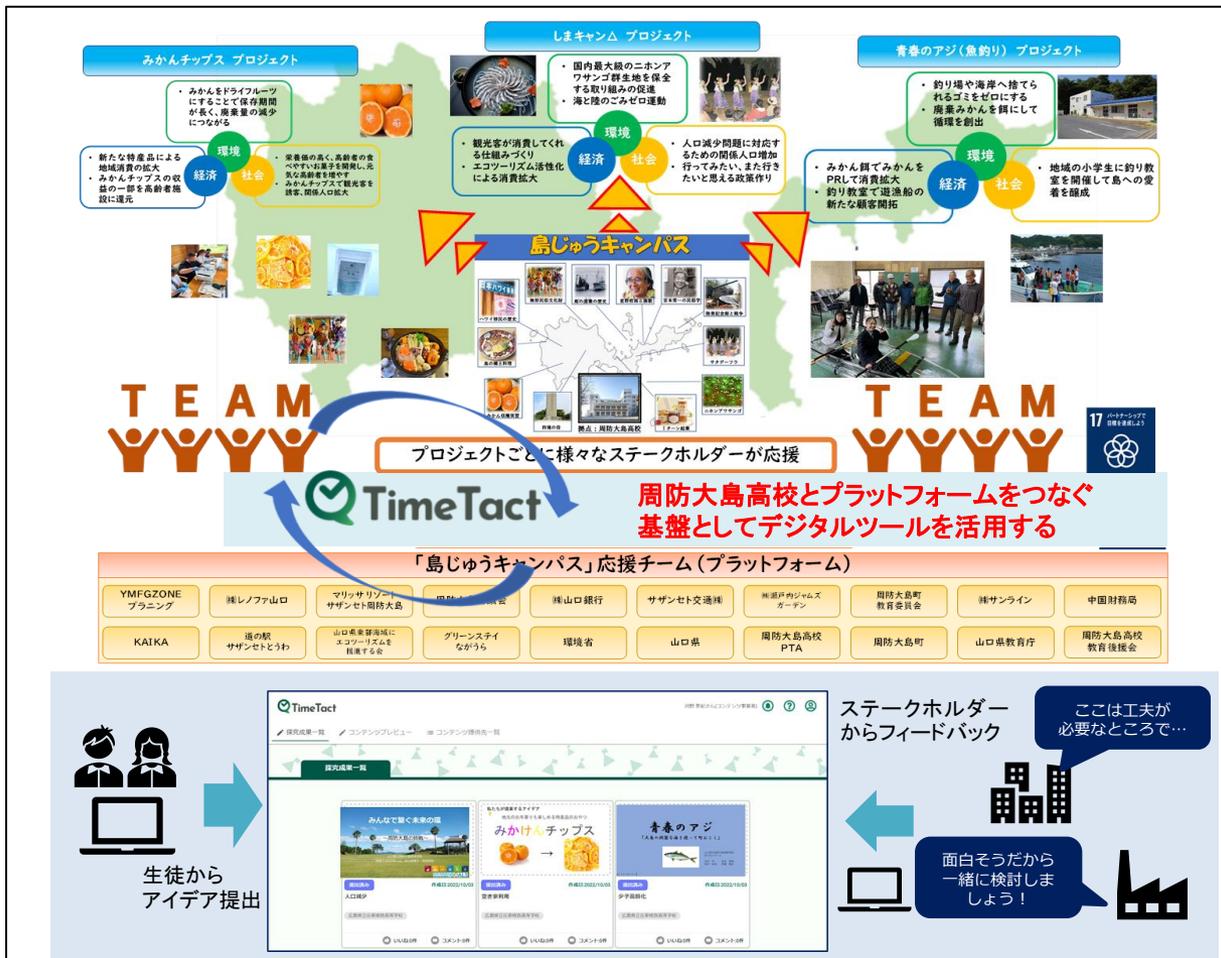
- ・ 周防大島高校の「島じゅうキャンパス」の取組から環境・経済・社会の課題解決を目指すプロジェクトが次々に生み出され、ステークホルダーが応援、事業化していくことで環境保全と地域経済活性化を実現した持続可能な地域となる。
- ・ 町内には既に多様な団体や企業が存在しているが、町外の企業なども含めて多様な関係者がつながり、新たな取組がプロジェクト的に創出される好循環の形成を目指す。

想定している資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- ・ 国内最大規模のニホンアワサング群生地
- ・ 瀬戸内海国立公園で初の「海域公園地区」（町南東沖の海域）及び周辺の「陸域公園地区」
- ・ 周防大島高校（地域創生科を有し、地域活性化に取り組む高校）
- ・ 多様な歴史を有する豊かな自然環境、地域の自然資源などの活用・保全に取り組む多様な団体
- ・ 令和5年度に供用開始予定のエコツーリズム拠点施設（様々なエコツーリズム活動の拠点として活用予定）

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

2023年3月 1年後の地域プラットフォームのイメージ



- 生徒のアイデアに対するフィードバックを、ステークホルダーがオンライン上でタイムリーに実施できるようデジタルツール「Time Tact」を活用したESDモデルを構築することで、プラットフォームにおけるステークホルダーと周防大島高校との連携を持続可能な形にすることを旨とする。

ステークホルダー

←新たに加わってほしいSH

- 農林水産関係の行政機関
- 山口県内の大学 など

←想定している課題・阻害要因

- 令和4年度は生徒の発表を現地でステークホルダーが聞き、意見交換する形で「事業のタネ」の創出を進めていたが、ステークホルダーの負担が大きく回数を重ねることが難しい点が課題(ステークホルダーの負担軽減)。
- プラットフォームに参画する民間事業者からは、事業のタネが早期に事業化し、地域経済の活性化につながることを期待されており、事業化が進まない場合はプラットフォームへの参画意欲が低下する可能性がある。

年間スケジュール

